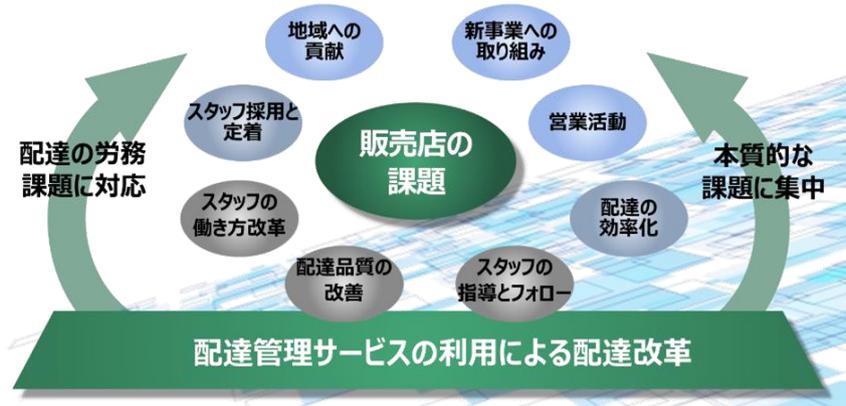


「誰でもその日から配達」を実現する 配達管理サービス Delivery Support System の 導入・トライアルを本日より受付開始

株式会社西日本新聞プロダクツ（福岡市博多区、代表・柴田建哉）、株式会社シグマ・インターナショナル（東京都中央区、代表・竹内 研二）、および株式会社ゼンリンデータコム（東京都港区、代表・清水辰彦）は、スマートフォンのナビゲーションにより、新聞など定期的な宅配物を不慣れな方でもミスなくお客様にお届けできる「**配達管理サービス Delivery Support System**」を共同開発しました。11月21日に販売開始を予定しており、本日より新聞販売店を対象に導入やトライアルの受付を開始いたします。

雨の日も風の日も、読者へ確実に新聞を届けることが求められる新聞販売店は、新聞社と読者をつなぐラストワンマイル^{*1}という重要な役割を担っています。しかし、配達スタッフの急な欠勤による代配^{*2}や、新規に採用したスタッフの教育、定着など、その役割を果たすためには多くの課題があります。また、地域に根差す販売店として地域が求めるイベントや事業への取り組み、店の経営強化に向けた営業活動の展開などやるべきことが山積しているにも関わらず、そうした課題のために十分な態勢を取れていないのが実態です。

今回開発した「配達管理サービス Delivery Support System」は、これらの課題をデジタル技術で解決し、新聞販売店が本来取り組みたい業務に集中できるように支援します。



【サービス説明 URL】 <https://www.nishipro.co.jp/system/dss>

本サービスは、スマートフォンの配達支援アプリと Web の配達管理 PC システムで構成されます。

配達支援アプリ - 銘柄・特徴を表示し、ルートマップを見ながら投函をナビで誘導

従来は、代配や新規採用の際に順路帳の更新、確認やリハーサルなどの苦労がありました。このサービスでは、スマートフォン (Android 版を提供。iOS 版は開発中) の画面上で銘柄毎の配達部数を確認ができ、バイクなどへの積載準備がより容易になります。配達中はマップのナビゲーションで迷わずに配達先に向かうことができ、さらに事前に配達先の写真や建物メモを登録しておけば、分かりにくい初めての配達先でも安心して投函が行えるようになります。

配達支援アプリ
配達スタッフが、スマートフォンのアプリとして使用。
出発前に順路マップや銘柄ごとの部数を確認。
バイクなどに装着し、配達先にて**銘柄や置き場を確認しながら投函**します。
次の行先が順次ナビゲートされるので、初めてでも間違わずに巡回できます。



配達スタッフ



積載する銘柄と部数

投函先写真

号室と銘柄の一覧から投函完了をチェック

配達管理 PC システム - 順路マップを自動作成し、配達状況を事務所で確認

それぞれの新聞販売店では、地図を見るだけでは分からない効率的な独自のルートで配達しているケースがあります。このサービスは、投函先の多い新聞配達にも対応してルートを自動作成しますが、一方で順路補正機能により、店舗独自のルートに変更することもできます。このほか、配達スタッフが現在いる場所や作業状況を新聞販売店から Web で確認することで万が一の事故などに素早く対応でき、安心して働ける環境が整います。

配達管理PCシステム

配達管理者が、事務所PCでWebとして使用。
配達データから順路マップを自動で作成しますが、状況によりマップを見ながら順路を補正できます。
スタッフの現在位置や配達完了状況を把握でき、現場トラブルの未然防止につながります。



配達管理者

配達スタッフの位置確認



投函完了状況の確認

ルートNO	建物名	住所	投函	配達
1		福岡市福岡市中央区舞鶴2丁目1-29	112	<input checked="" type="checkbox"/>
2	ダイオコートエスパス104舞鶴	福岡市福岡市中央区舞鶴2丁目1-31	155	<input checked="" type="checkbox"/>

今後の展開

1月21日予定の販売開始時には、配達支援アプリは Android 版をご提供。また、配達データ連携の条件を満たす顧客管理システムをお使いの販売店向けのご提供となります。今後は、配達支援アプリの iOS への対応に加え、様々な新聞社や新聞業界以外の顧客管理システムなど、幅広いプラットフォームに対応してまいります。

デジタルデバイスを活用した配達管理サービスは、新聞など定期的な宅配を行う業界から労務対策として強く求められており、幅広いプラットフォーム対応と様々な配達環境に適した機能開発を行うことにより、提供する販売店数の拡大を図ってまいります。

開発会社 メッセージ

株式会社西日本新聞プロダクツ 専務取締役 一木弘信

当社は紙の新聞が抱えるさまざまな課題に対応するために、西日本新聞グループ7社の業務を集約して2022年4月にスタートした会社です。今回提供する「配達管理サービス Delivery Support System」は、その1社であった新聞販売会社を中心に、5年にわたる研究と実証を経て開発に至った配達支援のサービスです。新聞販売店をはじめ配達に携わる皆さまの業務負担を大きく軽減できるものと考えています。ぜひお試しください。

株式会社シグマ・インターナショナル 第四ソリューション DIVISION 総統括 諸石弘敏

当社はメディア3事業（新聞・テレビ・雑誌）の基幹システム・製造配送販売システム・業界独特の日本語解析&アーカイブシステムを含む多岐に渡る業務アプリを長年スクラッチ開発しご提供してまいりました。「配達管理サービス Delivery Support System」はオーダーメイド開発会社の観点から、あらゆる業種、あらゆる配達物、あらゆるサイクルと総量をストレスなく管理できる商品であり、住所・氏名・建物名などの揺れを自動コンバートする機能も備えております。現在導入されている既存システムとの連携もスムーズにご提供できるインターフェースになっておりますので導入まで短時間でご利用いただけたらと考えております。

株式会社ゼンリンデータコム IoT 事業本部 本部長 鬼崎浩之

今回の開発にあたりゼンリングループが保有する地図情報および最新の技術をふんだんに盛り込むことが出来ました。特に、住宅地図をベースにした詳細な地図、高精度な住所検索機能、多量の目的地を自動で並び替えてくれる最適巡回機能等、これらの機能を有することで配達業務の精度と効率をデジタルの面から強く支援できることを期待しております。

開発会社 概要

株式会社西日本新聞プロダクツ (NISHINIPPON SHIMBUN PRODUCTS CO., LTD.)

本社所在地：福岡県福岡市博多区井相田 2-1-60

代表取締役社長：柴田 建哉

設立：2021年4月16日

事業内容：紙媒体制作事業／印刷事業、紙面制作事業

販売店管理事業／新聞販売事業、集中管理事業

商社事業／IT事業、自振・決済事業、生・損保代理業、商品調達・販売事業、コンタクトセンター事業、その他

HP：<https://www.nishipro.co.jp>

株式会社シグマ・インターナショナル (SIGMA INTERNATIONAL CO., LTD.)

本社所在地：東京都中央区日本橋人形町 3-3-13 人形町フォレストビル 7階/9階

代表取締役社長：竹内 研二

設立：1988年12月15日

事業内容：ソフトウェアの設計および開発、パッケージソフトウェアの開発および販売、

インターネットコンテンツの制作、ハードウェア機器販売、

商用WEBサイトコンサルティング

HP：<https://www.sigmaint.co.jp>

株式会社ゼンリンデータコム (ZENRIN DataCom CO., LTD.)

本社所在地：東京都港区芝浦三丁目1番1号 msb Tamachi 田町ステーションタワー N22階

代表取締役社長：清水 辰彦

設立：2000年4月13日

事業内容：ITS事業 高精度な地図データを活用したテレマティクス事業

ネットサービス事業 地図をベースとした法人向け付加価値情報サービス

コンシューマー向け事業 「いつもNAVI」「GODOOR」をはじめとする地図・ナビゲーションサービス

未来先進事業 リアルタイムセンシング技術による高精度地図・3次元地図

HP：<https://www.zenrin-datacom.net>

報道関係のお問い合わせ先

株式会社西日本新聞プロダクツ

企画部広報担当 梅津 TEL:092-575-4533 E-mail: kenya.umezu@nishinippon-np.jp

株式会社シグマ・インターナショナル

事業推進部 手計 TEL:03-3639-9555 E-mail: tebakari@sigmaint.co.jp

株式会社ゼンリンデータコム

広報宣伝室 田所 Mobile:080-8897-7838 E-mail: pr@zenrin-datacom.net

*1.ラストワンマイル：物流において最終の拠点からお客様への配達のこと。お客様へ商品を届ける物流の最後の区間であり、お客様満足度を左右する最も重要なフェーズとされています。

*2.代配：担当する区域の配達スタッフに代わって配達すること。事前の区域の下見がない場合では配達ミスにつながることもあり、店長の大きな悩みとなっています。